

第 83 回クラシックを楽しむ会

2024 年 1 月 28 日(日)18:00～(2 時間 22 分)

タイトル : 歌劇「トスカ」(プッチーニ)



アンナ・ネトレブコ

会場等 : ミラノ・スカラ座 2019 / 2020 開幕記念公演
:2019 年 12 月 7 日
楽団等 : ミラノ・スカラ座管弦楽団
合唱 : ミラノ・スカラ座合唱団
ミラノ・スカラ座アカデミー児童合唱団
指揮 : リッカルド・シャイー
振付・演出: ダヴィデ・リーベルモル
出演 : トスカ: アンナ・ネトレブコ
カヴァラドッシ: フランチェスコ・メーリ
スカルピア男爵: ルカ・サルシ
アンジェロッティ: カルロ・チーニ
スポレッタ: カルロ・ボシ 他

あらすじ

トスカに横恋慕する警視総監スカルピアは、トスカの恋人カバラドッシを犯人隠匿の罪で捕え、その助命と引替えにトスカを口説く。トスカは通行証を手に入れるとその場でスカルピアを刺殺。カバラドッシは処刑され、助命は偽りだった。追手が迫る中、トスカは城壁から身を投げる。

見どころ聴きどころ

主役 3 人がすべて死ぬという劇的オペラ。第 2 幕でトスカが「歌に生き、恋に生き」を歌ったあとスカルピアを刺殺する場面。第 3 幕でカヴァラドッシがトスカとの楽しかった日々を回想して「星はきらめき」を歌う場面。トスカが処刑場に駆け込んでカヴァラドッシに処刑は偽と伝えて二人は喜ぶが、銃声の後、トスカはカヴァラドッシが処刑されていた事実絶望。追手が迫る中、城の胸壁から身を投げるクライマックスの場面はいずれも手に汗をにぎるドラマである。

本公演は、ダヴィデ・リーベルモルによる新演出。教会の豪華な祭壇、宮殿の重厚さなど、度肝を抜く巨大な舞台装置は、コンテナ 30 台分、11 トントラック 45 台分！

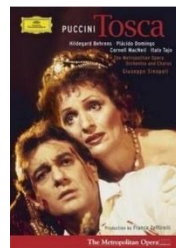
過去の上映記録

第 14 回 (2014 年 9 月) メトロポリタン歌劇場 1985 年 3 月

ヒルデガルド・ベーレンス、ブラシド・ドミンゴ、シノーポリ、ゼフィレリ

第 63 回 (2019 年 3 月) ザルツブルク復活祭音楽祭 2018 年

アニヤ・ハルテロス、アントネンコ、テジエ、ティーレマン、シュトゥルミンガー



第 14 回上映



第 63 回上映

第 84 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル: 歌劇「ロメオとジュリエット」(グノー)

2 月 25 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

パリ・オペラ座 バスチーユ(フランス) 2023 年 6 月公演。出演はエルザ・ドライシヒ、バンジャマン・ベルネーム他。指揮はカルロ・リッツィ。

あらすじ

【時と場所】

1800年6月17-18日。当時ローマは共和制が崩壊して王制のもとで恐怖政治が行われていた。

【登場人物】

トスカ： 歌姫
カヴァラドッシ： トスカの恋人、画家
スカルピア： ローマの警視総監
アンジェロッティ： 政治犯、共和主義者 その他

【第1幕】 聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会、6月17日昼下がりに

王制側の警視総監スカルピアは、共和主義者を次々と投獄していたが、そのひとりアンジェロッティは脱獄して聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会に身を隠す。この教会でマリアの絵を描いていた共和主義の同志の画家カヴァラドッシは、脱獄してきたアンジェロッティを隠れ家に案内する。

アンジェロッティを追ってきて教会を捜索していた警視総監スカルピアは、ローマの歌姫トスカを見つける。スカルピアはトスカが恋人カヴァラドッシの家に行くように仕向け、部下に尾行させる。

この時、スカルピアには王政軍がナポレオン軍を破ったという誤報*が入る。



聖アンドレア・デッラ・ヴァッレ教会

*1800年6月14日の「マレンゴの戦い」でナポレオン軍がオーストリア軍に勝利した。

【第2幕】 ファルネーゼ宮殿3階のスカルピア自室、6月17日夕刻

スカルピアは、連行されてきたカヴァラドッシを拷問にかけアンジェロッティの居場所を聞き出そうとするが口を割らない。スカルピアはトスカを呼びつけ、恋人が拷問されているのを見せる。トスカはそれに耐えられず隠れ家の場所を教えてしまう。

そのときナポレオン軍が王政軍を破ったとの報告が入る。喜ぶカヴァラドッシに怒ったスカルピアはカヴァラドッシを死刑にする。

トスカはスカルピアにカヴァラドッシの助命を嘆願する。スカルピアはトスカの体と引き換えにカヴァラドッシの命を助けると約束する。スカルピアの手がトスカの体に触れようとした瞬間、トスカはそこにあったナイフでスカルピアを刺し殺す。



ファルネーゼ宮殿、現在はフランス大使館

【第3幕】 サン・タンジェロ城の屋上、6月18日夜明け前

トスカはサン・タンジェロ城の牢屋に捕らわれているカヴァラドッシのもとに駆けつける。トスカは一部始終を彼に話し、銃殺刑は空砲で見せかけのもので、その後一緒に逃げられると伝える。

処刑が執行され、トスカがカヴァラドッシに近寄ると、カヴァラドッシは死んでいる。トスカはスカルピアとの約束が嘘だったことに気づく。ちょうどスカルピア殺害を発見した兵士が追ってくる。トスカは城壁から身を投げ命を絶つ。



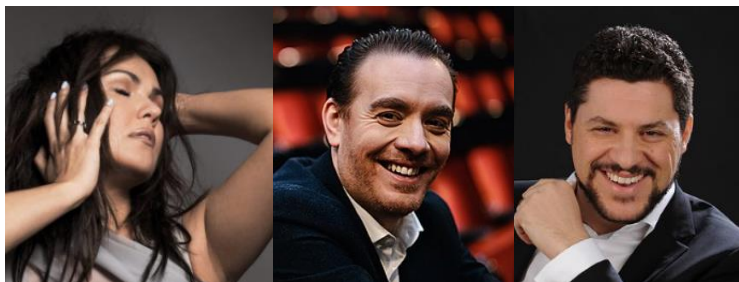
サン・タンジェロ城、現在は博物館

補足。上記教会と宮殿は共にローマ旧市街に、サン・タンジェロ城はテベレ川対岸バチカン市国にある。距離はほぼ1km余りの近さ。

出演者

アンナ・ネトレプコ(1971 -)はロシア出身のオペラ歌手で現代を代表するソプラノの一人。

ロシアのウクライナ侵攻後、西側から干されているゲルギエフ。ネトレプコは彼に見いだされてキャリアを始めたが、ウクライナ侵攻で難しい立場に立たされている。一時「当面の間公演から身を引く」事態に。ロシア下院からは自国の裏切り者と非難され、ウクライナ政府からは公人として制裁を受けている。



アンナ・ネトレプコ

フランチェスコ・メーリ

ルカ・サルシ

フランチェスコ・メーリ(1980 -)は23歳でスカラ座デビューした、イタリアを代表する世界的ヴェルディ・テノール歌手。ネトレプコとは2014年の「トロヴァトーレ」(第22回上映)で共演。現在も「アイダ」などでたびたび共演を重ねている。

ルカ・サルシ(1975 -)はイタリアのバリトン歌手。ネトレプコ夫妻とは2017年の「アンドレア・シェニエ」(第56回上映)で共演、2018年の「アイダ」(第52回上映)ではネトレプコ、メーリと共演。最近(2023年9月)も「マクベス」でネトレプコと共演している世界的なオペラ歌手である。

リッカルド・シャイー(1953 -)は、イタリア、ミラノ生まれの指揮者・音楽監督。14歳で指揮者デビュー、19歳でオペラ「ウェルテル」を指揮。名門ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団の常任指揮者として楽団の名声を高めた。現在ミラノ・スカラ座音楽総監督。2017年の「アンドレア・シェニエ」(第56回上映)では、ネトレプコ夫妻、ルカ・サルシと共演している。



シャイー

リーベルモル

ダヴィデ・リーベルモル(1966 -)はヨーロッパの主要舞台と母国イタリアの劇場で、舞台監督、舞台美術家、衣装・照明デザイナー、歌手、ダンサー、俳優、脚本家、教師として活躍。現在、舞台監督、演出家、振付家として世界的に活躍中。



ドゥオーモ広場から有名なギャラリーを通り抜けるとスカラ広場

歌劇「トスカ」の時代背景

ナポレオンのアルプス越えとマレンゴの戦い

1800年5月、北イタリアをオーストリア軍から奪還するため、ナポレオンはフランス軍37,000を率いてモンブランの東15kmのグラン・サン・ベルナル峠を越え北イタリアへ進出。6月14日、フランス軍はジェノバの北40kmにある「マレンゴの戦い」でオーストリア軍に勝利、オーストリアによる第二次対仏大同盟は崩壊する。激戦で戦況が錯綜、ローマに誤報が届いたのは3日後。



「アルプスを越えるナポレオン」



ナポレオンは「マレンゴの戦い」で勝利

*「セント・バーナード犬」は「グラン・サン・ベルナル峠」に由来。また、ナポレオンの愛馬「マレンゴ」とフランス料理の「鶏のマレンゴ風」はこの戦いに由来。

フランス革命に影響された共和派蜂起と王党派の巻き返し

フランス軍占領下のローマで1798年教皇領が倒されてローマ共和国が成立。ナポリも一時フランス軍に占領され1799年にナポリ革命発生。フランス軍撤退でイギリスのネルソン提督と同盟を結んだナポリ国王派が巻き返す。共和派を徹底的に弾圧して数千人を処刑。1799年9月ナポリ王国軍部隊がローマを占領しローマ共和国は終焉。ナポリ秘密警察が共和派残党を弾圧。1800年7月3日新教皇ピウス7世が教皇領を復活した。



「ナポレオンの戴冠式」(ルーブル美術館、ダヴィッド画)にピウス7世が描かれている。

補足。ダヴィッド画5枚の「ナポレオン」はヴェルサイユ宮殿他に展示、「マレンゴ」はウィーン・ベルヴェデーレ宮殿ほかに展示。ダヴィッド画「戴冠式」はヴェルサイユ宮殿とルーブル美術館に展示。

原作について

フランスの劇作家ビクトリアン・サルドゥ(1831 - 1908)が大女優サラ・ベルナルのために書き下ろした戯曲「ラ・トスカ」が歌劇「トスカ」の原作である。プッチーニがミラノでこの演劇を見たことが作曲のきっかけである。

原作では、以下のことが分かる。

1800年ナポリ王国がローマを占領して治安維持を担当。ナポリ王妃マリア・カロリーナは処刑されたマリー・アントワネットのすぐ上の姉。スカルピア男爵はナポリ王国の刑事として出世しローマに警視総監として赴任。その栄転の1週間後、政治犯アンジェロッティが脱走し、王妃はスカルピアを叱責。王妃にとってフランス革命もナポレオンも、彼を支持する共和勢力も、妹とその家族を殺した憎い敵。

ミュシャの「ラ・トスカ」ポスター。サラ・ベルナルは1899年にオペラ・コミック劇場を借りて「サラ・ベルナル劇場」と改称。

